国際社会学部

千葉敏之

TOSHIYUKI CHIBA

地域社会研究コース／中央ヨーロッパ地域（ドイツ）

歴史学

ヨーロッパ中世とは

専門はヨーロッパ中世史です。なかでも、神聖ローマ帝国のオットー朝（919-1024）を主な研究対象としています。この時代は、キリスト教の信仰圏が東西南北に広がり、現代の信仰地図の祖型が完成した時代です。また、西ローマ皇帝権が復活したことで、地中海＝ヨーロッパの重心が西に移動し始め、キリスト教世界が地中海を挟んで北アフリカ・東地中海のイスラーム圏と対峙する構図が整います。地中海を中心に交易による経済活動が格段に高まり、ヒトとモノ、思想が目まぐるしく駆け巡るようになります。古代都市をベースとした中世都市が各地に成立し、教会の尖塔、城壁に囲まれたエリアに密集する都市建築を特徴とする魅力ある景観が生まれ、ここにヨーロッパ文明の土台が築かれます。

研究紹介

オットー朝研究を中心に、ヨーロッパ中世の諸問題を、移動する人々・越境する人々と書物や知の伝達といった問題に関心を持ちながら研究を進めてきました。国王の統治と儀礼、死後世界・異界巡りの物語、キリスト教における魚の象徴学、エルサレムの複製（小エルサレムの形成）、大天使ミカエル崇敬の展開、初期十字軍のメカニズム、グローバルな気候と感染症など、国家史・政治史だけでは捉えきれない、それでいてヨーロッパ中世の魅力を感じさせる様々な主題に取り組んでいます。

神聖ローマ帝国（オットー朝）研究

- 『ドイツ史研究入門』『西洋中世学入門』
- 「不寛容なる王、寛容なる皇帝」
- 「秘義・啓示・革新－ジェルベール・ドリャク」

『1187年 巨大信仰圏の出現』

ヨーロッパ諸国が、サラディン率いるイスラーム勢力に大敗し、聖地エルサレムを失った、とされる1187年のヒッティーンの戦い。

「歴史の転換点」の真相を、その前史・後史の綿密な検証から浮かび上がる〈構造〉から問い直す。

担当授業

- ドイツ・ヨーロッパ中世史
- 中世後期・近世の中央ヨーロッパ史
- 歴史社会研究入門
- 百科全書―イシドールス『語源』とその写本にみる知の伝承
- 肉体の復活―中世キリスト教におけるその思想と画像

関連する分野

- 美術史
- 建築史
- キリスト教史（宗教史）
- 世界遺産

出版物

ドイツ・ヨーロッパ中世史
- 『ドイツ史研究入門』
- 『歴史の転換期1187年』
- 『歴史の転換期1348年』
- 『ヨーロッパ史講義』
- 『トゥヌクダルスの幻視』

西洋中世学
- 『西洋中世学入門』

世界史の教科書
- 『新世界史』
- 『詳説世界史研究』

世界遺産

国際社会学部

ヨーロッパ中世史ゼミ

世界遺産「歴史的城塞都市クエンカ Cuenca」（スペイン中部）

どのようなゼミか

本ゼミは、ヨーロッパ中世の歴史全般を対象としています。時代的には、初期キリスト教時代（とくに313年のミラノ勅令以降）から、初期・盛期・後期中世（500～1500年）、宗教改革を経て、三十年戦争終結に至るまで（1648年）、空間的にはヨーロッパ全域（神聖ローマ帝国、ブリテン諸島、地中海世界、イベリア半島、東欧スラブ世界、北欧バルト海世界、ビザンツ帝国等）が対象となります。

ヨーロッパ中世は、ネーションの枠を超えた広域の文化圏が対峙・接触し、近代世界とは異なる論理で歴史が展開していく固有の文明世界です。その本質は、政治・経済・社会・思想・芸術など、人間の営みの全てが、キリスト教信仰（Christianity）と密接不可分に融合している点にあります。千年もの時を生きたヨーロッパ中世世界について学ぶことは、人類社会が生み出しえた一つの個性ある文明を知ることを意味します。それは同時に、現代のヨーロッパをその淵源から見通すことでもあり、さらには〈他者〉を歴史的視座から理解し、他者との対比のなかから自己を深く理解することに連なっています。

本ゼミを通じて、〈問題〉を時間的・空間的な景観のなかで捉える視座と、〈問題〉を歴史学的な方法に即して探究していく方法論とを身につけてほしいと思います。

卒論

- Rupert von Deutz『雅歌注解』の世界観と女子修道院によるその継承
- 清貧と慈愛の王女エリザベート―盛期中世における貴族女性の新たな信仰実践とその理想像―
- ノルマン・シチリア王国における多宗教・異文化併存の統治実践
- 《西構（ヴェストヴェルク）》の理念と機能―帝国修道院コルヴァイにみるカロリング朝教会建築の創意―

おススメの本

- ハスキンズ『十二世紀のルネサンスーヨーロッパの目覚め』
- 佐藤彰一『贖罪のヨーロッパー中世修道院の祈りと書物』
- 秋山聰『聖遺物崇敬の心性史― 西洋中世の聖性と造形』
- ル・ロワ・ラデュリ『モンタイユーピレネーの村 1294~1324』

（地域社会研究コース　千葉敏之ゼミ）

私が千葉ゼミを通して得たものは、本気で学問に向き合ったという自信と、知ることの喜びだといえます。そしてその考えは卒業して５年が経った今も変わらないままです。千葉ゼミでは、毎講義に中世ヨーロッパ世界との新たな出会いがあります。そしてその出会いを最も喜び、最も真剣に向き合っているのは千葉先生といえるでしょう。ゼミ生はそんな先生の姿をみて、新たな知を得る機会は皆に平等に与えられていること、それから、純粋な知的探求の喜びを知ることになります。千葉ゼミを通して体得する、文献の読み方・史実の捉え方・考察の論じ方、すなわち歴史を自分なりに解釈する方法、その作法は生涯を通じてあなたの武器であり、新たな知という喜びをもたらす財産になります。卒業後、エレクトロニクス企業に勤め、現在は縁あって南米に暮らす私自身、新たな世界に触れる度にそのことを実感しています。是非あなたにも、自身の知的好奇心の赴くままに、先生と共に中世ヨーロッパ世界に没入する、そんな千葉ゼミでしかできない経験をしてほしいと思います。